

ふくおりの元気印

2005年3月刊 発行:地域づくりネットワーク福岡県協議会

特集 報告

第3回福岡県地域おこし研修・交流会 『門司港レトロ』協働のまちづくり

内容

地域づくり団体全国研修
交流会・奈良大会……………3～4頁
ふるさと通信……………5頁
地域づくり団体訪問……………6頁

福岡県の「げん木」 シリーズ②

築城町のシンボル「本庄の大樟」は全国第5位の巨木で、樟では同3位。国指定天然記念物。明治34年の火災で大半が焼失したが、第一枝が奇跡的に蘇り、地元の人の手厚い保護で何本もの支柱に支えられ樹勢を保つ。根回り32m、樹高23m。樹齢、実に1900年といわれ、景行天皇が熊襲討伐の際、戦勝祈願で植えたといわれる。又、新羅2年(725)創設の宇佐神宮の式年遷宮では、神木を山から切り出す際の「御杣始祭」で、この「本庄の大樟」の前で祭典が行われた古記録がある。この巨木の前に佇む人は悠久の歴史に圧倒される。

(写真・築城町提供)

特集

「地元・行政・民間」協働のまちづくり 門司港レトロの10年に学ぶ

第3回福岡県地域おこし研修・交流会

第3回を迎えた「福岡県地域おこし研修・交流会」が、3月19日、北九州市門司区の門司港「港ハウス」で開かれ、県下の地域づくり団体の代表や行政関係者など約80人が参加。今回は「門司港レトロ・協働のまちづくり」をテーマに、今や全国的にも評価される門司港レトロ事業の内容をじっくり学び、各地での地域づくりに生かそうというのが開催趣旨。地域づくり団体の事例発表も多く、中味の濃い勉強会となった。

従来、地域づくり活動はそれぞれ多様に行われて来たが、「地域づくりネットワーク福岡県協議会」（所管・福岡県地域政策課）と「福岡県地域文化おこし連絡協議会」（所管・福岡県生活文化課）が共催して3年前から実施しているのが、



現地説明会。門司港駅からスタート。駅は重要文化財に指定されているが現役であり、数々の歴史も秘めただけでロマンのかたまりだ。

今回の研修・交流会。当日は県下各地から多彩な地域づくりの実践家を中心に行政関係者も参加して終日、熱心に意見交換や実践報告を行った。

今回、門司港レトロ地区を会場に選んだのは「地域づくりの先進例に学ぼう」との思惑があったからで、開催に協力して頂いた地元の皆様と事前に検討を重ねてユニークな大会内容が実現した。

まず、午前中はじっくり現地視察。北九州市観光ボランティアの3人の方に案内して頂いて、参加者は3班に分かれ徒歩で出発。当日は、前日までの悪天候と打って変って、風

もなく陽光が輝く絶好の春日和。一行は門司港駅から旧門司三井倶楽部▽旧大阪商船のクラシックな構えの建物の内外を視察。建物が単に保存・移築・管理されているだけではなく、内部はレストランだったりギャラリーだったりして観光客が楽し気に往来している。

一行はさらに門司港レトロ地区の心臓部である第一船だまり周辺へ。この船だまりも、かつて門司港が寂れた時、埋め立ての計画が持ち上がったが、住民の反対運動で保存され、現在は親水広場として訪れる人の「憩いの空間」を演出している。



全体会場の様子。若い女性の姿も見えた。全国的に人気が高まる門司港レトロ、年間200万人が足を運ぶ。

分科会

- 第1「環境」（清潔・安全なまちづくり）
- 第2「景観」（景観を活かしたまちづくりと市民活動）
- 第3「文化」（地域文化の継承と伝統）
- 第4「保存」（歴史的遺産の保存と活用）
- 第5「協働」（地元・行政・民間によるまちづくり）

報告 門司を美しくする会 吉田清春
報告 門司の景観を考える会 森重瑞恵
報告 門司港アート村 村長 川端孝則
報告・レトロ口基金委員長 有光武元
報告 門司港レトロ倶楽部 部会長 山口 仁



5つの分科会討議は大いに盛り上がった。1時間半を用意したが、いささか時間不足の感も…。

船だまりを右手に見ながら、はね橋「ブルーウイングもじ」を渡る。左手に関門橋のループ形の優美な姿。対岸が下関市で赤間神宮、春帆楼などが手にとるように見える。渡り切ると正面に国際友好記念図書館の堂々たるレンガ造りの建物。友好都市、中国・大連の帝政ロシア時代の建物を模したもので内部は図書館と中華料理のレストラン。その前が旧門司税関で一階フロアーには時節柄、華やかな雛壇が幾組も展示されていて、入場者は盛んにカメラのフラッシュ。ここを出ると目の前に仰ぎ見るようなノボの高層マンション「レトロハイマート」。高さ103m、31階建て。最上階に「門司港レトロ展望室」があり、観光客の人気ス



ポットだ。実はこのマンション、住民の反対運動で業者も設計変更し、現在の形に収まった由。ここにも景観を尊ぶ住民の意志が貫徹されていた。

活発だった分科会の討議

環境・景観・文化・保存・協働

—五分科会で報告意見

全体会は午前2時半から。まず主催者を代表して地域づくりネットワーク福岡県協議会・中村仁彦副会長（福岡県地域政策課長）が挨拶。「地域づくり運動は最近、マンネリ化との指摘があるが、地域活性化のための大切な手法だし、その成否は最終的には人と人とのネットワークに尽きると思う。今大会を活用して下さい」。続いて地元を代表して北九州活性化協議会の高山強氏が歓迎の挨拶。

直ちに本題に入り、ビデオ「地域の復興をかけた『門司港レトロ事業』」の上映で参加者はこの10年間の地元・行政・民間（企業）の取組みを知った。さらに、北九州市・門司港レトロ室の奥田尚弘次長が概要を説明。

以上の予備知識をもとに参加者は5つの分科会に分かれてテーマ別に討議に入った（テーマは前頁に表で掲示）。

このうち第5分科会・テーマ「協働」（地元・行政・民間によるまちづくり）の様子を中心に紹介する。事例報告は門司港レトロ倶楽部の観光宣伝部長、山口仁さんで山口さんは地元の酒販売店の跡取り

息子。若い情熱で熱弁をふるった。

門司港レトロ倶楽部は地元、民間（企業）、行政の三者が連携し、この地域の活性化を図る中核的な組織であり、まさに「協働」のモデルと言っても良い存在だ。

北九州市の立案した門司港レトロ事業（300億円）と共に発足し（平成7年12月設立）、今年で10年目。現在、地元8団体、民間11団体、行政4団体が加入する。活動は3部会で構成される。

①観光資源開発部会（地域活性化の検討、提案、研修、視察等）

②観光宣伝部会

（観光キャンベーン、PR誌



会議のあとの交流会では門司港名物・バナナの叩き売りの出しものもあって、会場は大にぎわい。又、名刺交換、情報交換も盛んであった。

発行、ホームページ作成等）
③観光客受入れ部会（イベント企画、市民イベントの募集・後援等）

以上の活動の年間予算は2500万円。うち2300万円を北九州市が負担する。同倶楽部の名誉会長は北九州市長。「官」と「民」の連携の良さ。この10年間でレトロ地区の店舗数は3店から60店へ、雇用人数は30人から670人へ、売上高は3億円から47億円へ増えた。

そのような活発な取組みに対し、同分科会に参加した県下の地域づくり団体から多くの賛辞が寄せられた。「なぜ、そのようにうまく行くのか」―だが、それについては門司港レトロ室の奥田氏（前出）の指摘が参考になる。氏は①女性の情熱②文化・アートを感ぜさせる街づくり③レトロ基金など地元の積極性④行政と民間の役割分担―等をあげた。

各分科会からも報告があり、『門司を美しくする会』の清掃活動で中学生がトイレの掃除をしていると聞いて感動した▽『門司港アート村』の活動に関心を持った―等々の感想が寄せられた。

地元の熱意と創意工夫、民と官の良く噛みあったパートナーシップ―それからの相乗効果が門司港レトロ事業を成功へと導いた様子がよく学べて、実り多い研修・交流会であった。

次回は筑豊ブロックでの開催予定です

テーマ「歴史に学び、未来を語る」

全国から
四百人参加
第22回地域づくり団体全国研修交流会

奈良大会

今回で22回目を数える「地域づくり団体全国研修交流会」は2月17、18日、奈良県で開かれ、全国から地域づくりの実践家や行政機関関係者など約400人が参加。全体会のあと、同県下の11分科会場で数多くの実践報告があり、地域づくりの苦労や喜びを語る熱い言葉が交わした。大変貴重な勉強の場であった。次回は来年2月10、11日、沖縄県下で開催される。



全体会で披露された「ちびっ子検定本座」公演。奈良県大淀町では文化遺産「検定本座」を発掘し、町内の小学校3～6年生で「ちびっ子検定本座」を立ち上げ、町あげて能楽を活用した地域づくりに取り組んでいる。

今大会は奈良県大淀町の「大淀町文化会館」を全体会場に、同県下11分科会場で開かれた。大会テーマは「歴史に学び、未来を語る」奈良でまったく「しませんか」。大会主催者の説明によると、このテーマは「まったく」とした時間の流れ、空間の広がりのある奈良の地で、ゆつくりと、でもしっかりと、それぞれの地域に未来を語り合おう。昨年7月、「紀伊山地の霊場と参詣道」、いわゆる熊野古道が世界遺産に指定され、これで世界遺産を3つ持つ奈良県は、大会のアトラクション、ビデオ紹介などにも重厚な歴史を感じさせる技と雰囲気巧まずして演出されて、「歴史・伝

統は地域づくりの貴重な財産である」という言葉が自然に思い出された。

午後1時から開会式。まず、主催者挨拶として地域づくり団体全国協議会の森巖夫会長が「全国大会は今年で10年目を迎え、地域づくりのノウハウを知る情報の相互交流もスムーズになり、それが一層、地域づくり活動を活性化している。温故知新という言葉がある。改めて地域

第1分科会報告

「歴史観光都市・奈良における新しいまちづくりへの挑戦」
「民」主導で行政がバックアップの4好例

第1分科会では古都・奈良の中心街を舞台に、さまざまな地域づくり活動を実践している団体代表4氏によるパネルディスカッション。4氏はいずれも民の立場からの実践で、NPO法人さんが俵座（三井田康記理事長）▽わらべうたフェスタ実行委員会（倍巖良明委員長）▽バサラ祭り実行委員会（魚谷和良委員長）▽NPO法人なら燈花会（朝廣佳子会長）の方々。

司会 奈良市は1999年、市内8資産群が世界遺産に登録された。それはそ

を見直し、新しい地域づくり活動に取組もう」と呼びかけた。
続いて歓迎のあいさつ。奈良県の柿本善也知事（代読）が「地域づくりとは、いかに地域の財産を掘り、磨き、知ってもらうか、にあると思う。世界遺産に恵まれた奈良は常にそれを念頭に置き、地域の皆さんと一体となって地域づくりに邁進している」と述べた。

このあと来賓挨拶。総務省の稗田昭人地域振興課長は「一番大事なことは地域の意識と具体的取組みで、それが地域づくりの原動力になる。国としては来年度も、わがまちづくり支援事業など財政面での応援を続けていく」と語った。

全体会を終えると、参加者はバスで県下11分科会の会場へ移動した。

れで結構なのだが、半面、古い都であるが故に、閉鎖的だ、封建的だなどとして新しいものが育たないとも言われる。まず、パネリストの方々の取組み事例から語って下さい。

三井田 近鉄奈良駅の南、1km四方の区域に古い民家の街並が広がる。このエリアを私たちは「奈良町」と呼ぶ。行政上の呼称ではない。ここは、京都で有名な「町家」出入口が狭くて奥行きが深い民家が軒を連ね、昔ながらの古いたたずまいを残している。全部で約1500戸のう

ち約600戸が町家だが、後継者が去り、約80戸が空き家になった。私たちは10年前から空き家対策と街並み保存に立上った。町家の良さと再発見、住みやすくなる工夫(改築)に取組み、今では町家を借りて喫茶店、菜食・自然食店、アジアの雑貨店、茶道具店などが並び、客足も伸びた。今後、さらに「いにしえと現代の生活が交錯する町」をめざしていきたい。

倍蔵 私の本職は僧侶だが、毎年「わらべうたフェスタ」を開催して12年。どちらが本職かわからなくなった。やっていることは、お年寄りからわらべうた



第1分科会(奈良市では四者四様の実践例が報告されたが、取組みがバラエティに富み、古都に埋没しない新しいエネルギーが感じられた。報告のマイクをにぎるのは「わらべうたフェスタ」を主宰するお坊さん。

を聞きとり、こども合唱団や劇団で発表し、普及に努めること。今、保存・普及に努めないと無くなってしまいう歌も、と心配する。幸い、奈良町の一角に公設の奈良市音声館があつて毎年のフェスタもスムーズに。こどもも大人もお年寄りも大好きなわらべうたを通して世代間のコミュニケーションづくりから明るいまちづくりへとつなげていきたい。

魚谷 奈良市には以前から行政主導の「奈良祭り」というのがあったが、どうも盛り上がらない。そこで私たち若者パワースタが立った。ヒントは高知の「よさこい祭り」。「歴史と文化の街で、やってみるか」と行政も巻込んで6年前に立上げた。毎年8月下旬、奈良市の中央商店街を、てんでに装いをこらしたダンスチームが踊り、歌いぬける。いわく「パサラ祭り」。予想を上回る人気で、昨年は参加チームが約6万人、県外からも33チームが参加した。観光客も増え、商店街の協力も力強い。本場に市民参加型の新しい祭りが出来たと自負している。

朝廣 奈良市には名所旧蹟が多いことはご存じの通りですが、夜の奈良の魅力を、ローソクのライトアップで楽しんでもらおうというのが私たち「なら燈花会」の取り組み。範囲は広く、主な神社仏閣から一般市街地まで及ぶ。期間は毎年8月15日に至る10日間。このため、ローソクの点火など準備が大変だが、市民サポートが昨年は2300人も参加してくれて、6年目にして観客は70万人を超えた。期間中、コンサートなどもやるが私たちは「人それぞれが祈りを込める一

大会に参加して

人の多様さは力。斑鳩町で多くを学ぶ

如來田の環境を守る会 塩川 善尚

神楽演奏に始まり韓様仏像拝観に閉じた斑鳩町での第6分科会。昔、大陸から海を通じてこの地に届いた人・モノ・文化。今、大阪から35分の交通の便と、早くからの子育て支援施策のせい、ここ40年で人口は2.2倍に。しかし、風致地区(町域の44%)ほか、都市計画と誘導・保全の諸施策で都会に一番近いイナカを保持。文化協議会主催の聖徳太子塾(年6回)は県域を広く越え、1000を超える会員で5年目を迎える。ここではスローライフの願いも、地元の人も集まれるマチを志望。も叶うだろう。なぜなら、大阪への交通の便・種々の働きかけ・遺産の誇りが、今また多様な人材・情報を集めているから。人の多様さは力だと思った。

朝廣 奈良市には名所旧蹟が多いことはご存じの通りですが、夜の奈良の魅力を、ローソクのライトアップで楽しんでもらおうというのが私たち「なら燈花会」の取り組み。範囲は広く、主な神社仏閣から一般市街地まで及ぶ。期間は毎年8月15日に至る10日間。このため、ローソクの点火など準備が大変だが、市民サポートが昨年は2300人も参加してくれて、6年目にして観客は70万人を超えた。期間中、コンサートなどもやるが私たちは「人それぞれが祈りを込める一

夜に」と願っている。

以上、4氏の熱い口ぶりを紹介したが、会場からの質疑も熱心で会議は時間不足気味。最後に司会の乾昌弘氏(NPO法人なら元氣もんプロジェクト推進会議理事長)が「4団体の取組みは、民主導で、それを行政がバックアップした。それが成功の秘訣だと思う」と締めくくって会場から賛同の拍手。

夕方からの交流会、その後の夜なべ談義も大いに盛り上がった。

郷土の埋もれた偉人たち シリーズ②

社会福祉事業家。甘木市生まれ。慶大中退。福岡日日新聞記者を経て、大阪で医事新聞を発行。昭和7年から(社)大阪府衛生会事務長を務め、戦災孤児、浮浪児の収容に従事。「社会から

見捨てられた子供を、正しい社会人として育てる」ことを信念とする。

そのため、良い環境を確保しようと郷里・秋月に帰り、地元での反対を説得して昭和23年に古処学園を創設。家財や衣類など

を売却して運営費に充て、さらに自己所有地を提供するなど自己犠牲を一切、かえり見ることなく、昭和51年に没するまで尽力。

育てた子供は実に250人に及ぶ。青少年の非行防止、さらには福祉向上に、身をもって実践の姿を示し、甘木市社会福祉協議会の役員、福岡県児童福祉審議会委員として地域社会の尊敬を受けた。

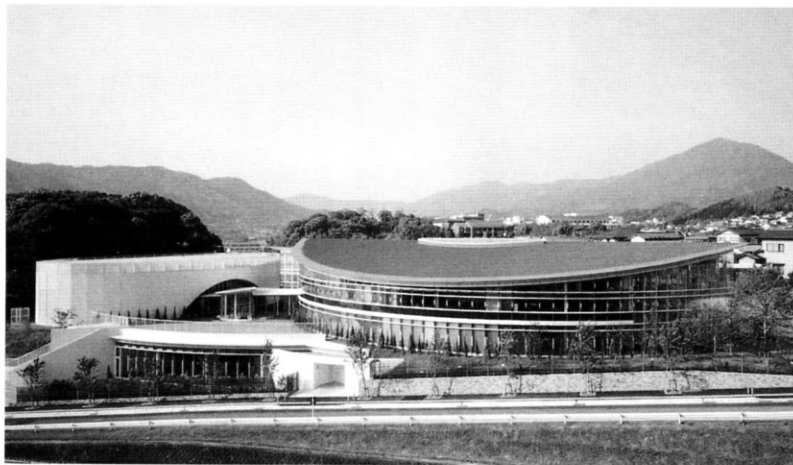
林 正俊
はやしまさとし 1894-1976

福祉を实践。育てた子供は250人。

地域づくりのヒント

美しい景観は地域の財産

発表 第17回福岡県美しいまちづくり賞



「リンデンホール小学校」

「一般建築の部」で優秀賞に輝いたリンデンホール小学校（太宰府市五条）。起伏に富んだ土地に、おおらかに伸びやかに建築された。建物も美しくデザインされた。私立学校だが、公立学校でも見習いたいところ。

優秀賞

第17回福岡県美しいまちづくり賞は2月8日、入賞者が発表・表彰された。今回は「住宅の部」に86件▽「まちづくり貢献賞」に5件の応募があり、選考委員会（委員長 上和田茂・九産大教授）により大賞1件、優秀賞4件、福岡県建築住宅センター理事長賞1件が決定した。今回から、自然景観を対象とした「まちなみ景観の部」が新設された。大賞は住宅の部の「カルシア小戸ナチュア」＝福岡市西区小戸Ⅱ。以下、3景を紙面紹介する。（担当 福岡県住宅課）

ふるさと通信

わがまちニュース

優秀賞

「井田原地区」
新設された「まちなみ景観の部」で優秀賞を贈られた井田原地区（糸島郡志摩町井田原）。のどかな田園風景が、集落の個人の方々の努力で自然に演出されている。



5・6歳児にキャンプ体験を

九州で初 自主性・協調性を育む

福岡県

福岡県生涯学習課は新年度から、5・6歳児を対象に、キャンプなどで集団生活を体験させる事業をスタートさせる。幼児の自主性、協調性を育てるのが狙いで、「保護者を同伴させず」にこのような事業を実施するのは九州・山口地区では初めて。

先進例を参考にした。山梨大学の教官も加わった民間組織「山梨幼児野外教育研究会」（甲府市）は約25年前から幼児対象の野外キャンプを実施。佐賀県も5年

前から保護者と幼児が1泊2日の野外宿泊体験をする事業に取組み、「子供が自分で洋服をたたむようになった」「進んでお手伝いをする」などの実効例が報告されている。

福岡県では5月に有識者や教育関係者による推進協議会を結成し、運営内容を決めた上で、地域住民やボランティアなどに事業参加を呼びかけることにしている。地域づくりの一助にもなる。



まちづくり貢献賞

「NPO則松金山コスモス会」（北九州市）

河川改修をきっかけに花公園化に取組み、60歳以上のお年寄りが20年間にわたって美化運動を実践してきた。その成果がみごとな光景を生んだ。

筑豊の人なら誰でも知っている福智山（901m）。この山の中腹、南向き斜面に樹齢を経たサクラの大木があることは、山のごく一部の関係者以外、誰も知らなかった。平成元年、役場に勤める小林省吾さん（56）は山腹に、春先になると必ずピンクの斑点が出来ることに気が付いた。仲間と山中を調べてみた。

あった！登山道もない深い杉木立の中にサクラの古木があった。地形が急峻で杉林に「隠された」状態だったので発見が遅れたのだった。幹周3.8m、樹高23m。樹木医の診断によ

って、ヤマザクラでも、ましてソメイヨシノでもない

エドヒガンで、樹齢約600年、全

世紀の発見、桜の古木をまもる

赤池町「虎尾桜を心配する世話人会」

国でも珍しい野生種と判った。エドヒガンは、有名な岐阜県根尾村の淡墨桜で知られるが、福智山のそれは花の色が濃いピンク色で、目を奪われる風情を漂わせる。まだ、木が「若い」方なのか。しかし、発見当時の様子は悲惨だった。成長の早い桜が周りを囲い、日光を遮る環境になっており、桜の根もとは半分腐っていた。枯死の危険？！

世話人会（当初は井上孝生会長、現在は熊谷信孝会長）を結成すると各方面に訴えて、この桜の「救命」と「保護」に乗り出した。まず「救命」である。支柱を立て、ワイヤをかけて、肥料を施した。



会員は手弁当で登山道の整備や案内板の取り付けに汗を流す。維持・管理も続く仕事である。



近未、まれに見る発見といえる虎尾桜。樹高23m、幹周3.83m、根株周4.73m。樹齢は約600年。樹種はエドヒガン。花は濃いピンク色。山中には他にも源平桜など10数本のエドヒガンが確認されており、この虎尾桜が「母樹」とみられる。

情報交差点

◇自治会活動の「虎の巻」を作成・配布◇

福岡市は昨年度から小学校校区単位の住民組織「自治協議会」による自治再編を進めている。このため、住民の疑問や自治会長などの意見も聞いて『自治会活動ハンドブック』を作り、運営方法や会計処理など多くの参考事例を紹介した。夏祭りや敬老会などの実施方法まで丁寧な内容になっている。A4判、76頁。1万部を希望者に配布。問合わせは同市コミュニケーション企画課 ☎092(711)4286 へ。

◇母親による子育て情報誌、好評◇

福岡市（1月から福津市）で昨春、子育て中の母親たちが創刊した子育て季刊誌『ぷくぷく』（無料）が好評。当初は町が制作費を負担して発行予定だったが財政難で見送りに。「それなら私たちの力で」と、『子育てネットワークぷくぷく』（佐伯美保代表）が企画・編集から広告集め、印刷発注まで引受け、発刊。A4判、22頁。母親の視点からの編集が好評で、役場（市役所）に置いている。

◇虎尾桜の花見と福智山・鷹取山自然観察会のご案内◇エドヒガンの古木「虎尾桜」の開花を賞で、そのあと福智山・鷹取山をハイキング。好天であれば4月3日を予定。参加無料。問合せは本紙、上段の記事「虎尾桜を心配する世話人会」事務局の小林省吾さんへ。

こんにちは

地域づくり団体訪問

シリーズ⑮

団体概要

■代表

熊谷 信孝

■事務局担当

小林 省吾

■連絡先

〒822-1101

田川郡赤池町赤池547-4

☎0947(28)4717

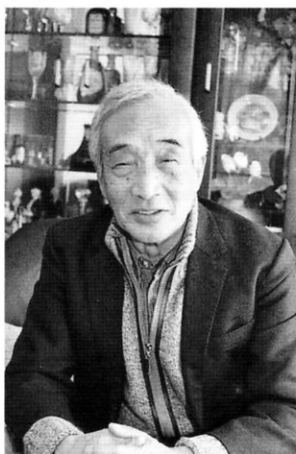
■会員

40人(町内)。他に町外の準会員もいる。

福岡市の高齢者市民劇団「シルバーパンサー」代表

いち 和 一さん (77)

みつ 光 藤



平均年齢65歳。だが「夢や感動は生きるエネルギー」と、全国でも珍しい高齢者のミュージカル劇団が旗揚げ公演。今年で5年目を迎えた。団員（と言っても実はシロウト）15人。一座を率いる藤光和一さんは根っからの芝居好きで、自ら舞台上に上がる。実年齢には、とても見えない若さと元気さだが、そこには藤光さんの確とした人生観が投影されている。

隠居なんか、まっ平ぐめん 好きな演劇に情熱全開！

劇団名「シルバーパンサー」。

映画の「ピンクパンサー」をもじって付けた。平成12年に旗揚げ。現在、団員は男3人、女12人で年齢は藤光さんの77歳から53歳まで。本業は男性が年金生

活者、女性が主婦、パートタイマーといったところ。みんな「シロウト」なのだが、気概は共通する。それは劇団の歌が表している。「隠居なんかまっ平ぐめん 暗い世相を吹き飛ばせ」の心意気だ。これに感応して劇団に強力な「助っ人」が現われた。脚本、演出、作曲、照明など福岡にいるプロの人達が応援してくれる。それに、上演となると子供劇団から一般・青年劇団まで30人もの友情出演がある。「世間は人の和、仲間」。藤光さんは若い人たちの交流に、しばしば、胸を熱くする。

実は、この点も劇団運営の魅力なのだ。

藤光さんは下関市の生まれ。若い頃、杉村春子一座の芝居を見て感動した。国鉄に勤め、職場でも演劇サークルを主宰。13年前、息子の住む福岡に転居、不動産業を営むかたわら「シルバーパンサー」を知って入団した。ミュージカルの出しものが主体で、動きや演出は派手だが、それを十分楽しむ気力・体力が藤光さんにはある。家庭菜園を日課に、車には乗らず永年愛用の自転車で移動する。「老人がボケや病気で、若い世代に迷惑をかけてはいけません」。自らの生活信条を楽しく実践している。

連絡先

〒815-0083 福岡市南区高宮1の22の3
090・2506・9259

お知らせ

地域づくりネットワーク福岡県協議会から

◆本紙1・2頁にもありますように、門司港レトロ口地区で開催しました今年度の福岡県地域おこし研修交流会は無事終了しました。開催手続きが遅れ、会員の皆様方にたいへん迷惑をおかけしました。たいへん申し訳ありませんでした。無事開催できたのは北九州ブロックの会員の皆様方をはじめ地元の皆様方のご協力のおかげです。たいへんありがとうございます。

◆次回は筑豊地区を予定しています。交流会の席では様々な魅力あるアイ

デアが交わされました。そのうちのいくつかでも実施できればと考えています。会員の皆様の中に「こうしたらおもしろくなるよ」というアイデアをお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひご二報いただければありがたいです。

◆さて、当協議会では、皆さんの地域づくりの二助として「地域づくりコーディネーター」を派遣しています。是非ともご利用ください。委細はご遠慮なくお問合わせ下さい。

協議会事務局担当・川上

地域づくりコーディネーターの目

その⑬

岡本顕實

2月中旬、奈良県を会場に開かれた第22回地域づくり全国研修交流会（その詳細は本紙3・4頁に報告）に参加した。その際の「土産話」を提供したい。来賓として挨拶した総務省地域振興課の稗田昭人課長から直接取材したので確かな話である▼国（総務省）は地域づくり活動をバックアップするために来年度も「わがまちづくり支援事業」を実施する（国予算は3月23日に成立）。総額680億円。全国の市町村に直接、普通交付税交付金として振込まれ、人口10万人の標準都市で4000万円ほど▼このお金は地域づくり団体が市町村の窓口申請して認可されれば自由に使える。

る。小学校区単位、公民館単位で申請が出来る。前者の場合、予算は200万円ほど▼使途の内容だが①話し合いの場づくり②提案③事業―といずれの段階でもOKだ。これまでの実施例では子育て、花いっぱい、防災マップ、伝統芸能、まちかどコンサート等、多種多様▼ヒト、モノ、カネで苦勞する地域づくりだが、昨今、特にカネは厳しい。そんな折り、こんな良い話は滅多にない。地域づくり団体はもちろん、行政担当者も意外とこの話を知らない▼関心のある人はぜひ市町村の窓口か、あるいは総務省地域振興課☎03（5253）5533に問合わせ下さい。

発行

地域づくりネットワーク福岡県協議会

〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7 福岡県庁 地域政策課内

TEL.092-651-1111(代表) FAX.092-643-3164

http://www.chiikinet-fuku.org